

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県 第2週の発生動向

トピックス

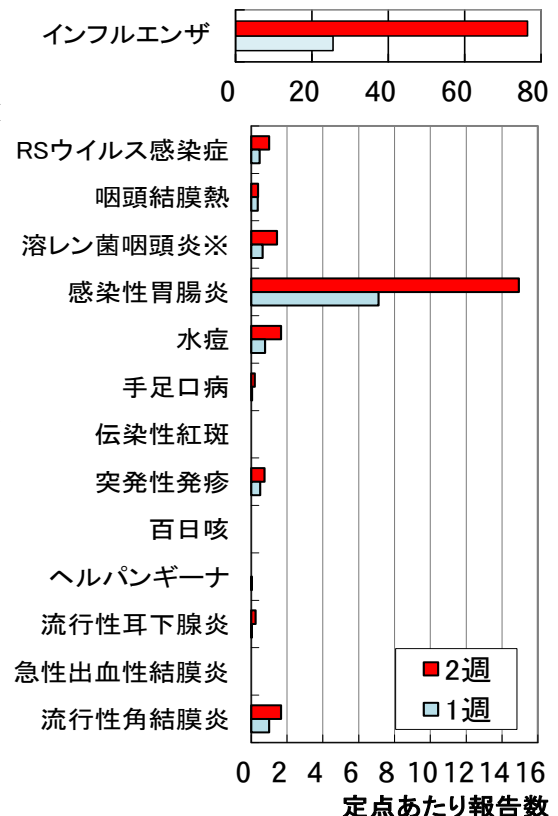
インフルエンザ (定点把握対象) : 第2週(1/5~1/11)の県内の定点当たり報告数は76.4で、今シーズン初めて警報レベル(30.0)を超えました。昨シーズンと比較して2週間早くなっています。県内では、今シーズンはインフルエンザ AH3 型が検出されています。詳細後述。

全数報告の感染症 (2週までに新たに届出のあったもの)

1 類感染症 : 報告なし。2 類感染症 : 結核 4 例。3 類感染症 : 報告なし。4 類感染症 : つつが虫病 1 例。5 類感染症 : 侵襲性インフルエンザ菌感染症 1 例、侵襲性肺炎球菌感染症 1 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型	症状等
2類	結核	宮崎市	80 歳代	女	肺結核	痰、発熱、呼吸困難
		延岡	60 歳代	男	肺結核	痰、発熱
			70 歳代	男	疑似症患者	—
		高鍋	80 歳代	男	疑似症患者	発熱
4類	つつが虫病	日南	70 歳代	女	患者	発熱、刺し口、発疹
5類	侵襲性インフルエンザ菌感染症	日向	80 歳代	女	患者	肺炎
	侵襲性肺炎球菌感染症	宮崎市	60 歳代	女	患者	発熱、菌血症 ワクチン接種歴なし

《前週との比較》



定点把握の対象となる5類感染症

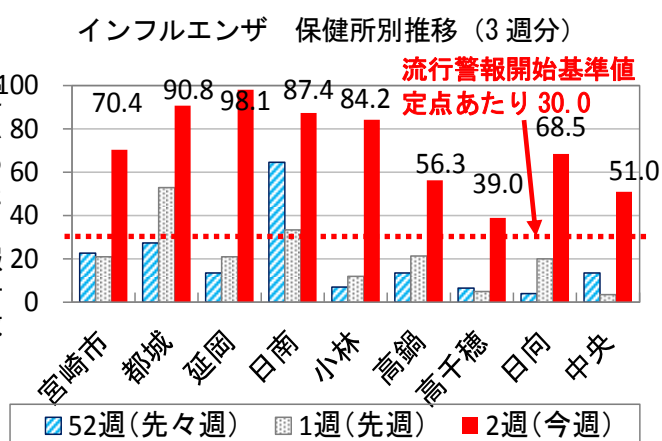
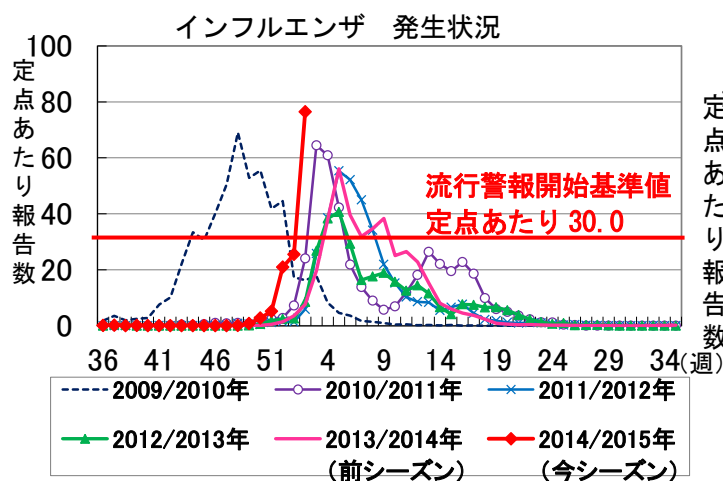
・定点医療機関からの告総数は 5,263 人 (定点あたり 98.9) で、前週比 271%と大幅に増加した (前週は年末年始の休診含む)。前週に比べ増加した主な疾患はインフルエンザと感染性胃腸炎で、大幅に減少した疾患はなかった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【インフルエンザ】

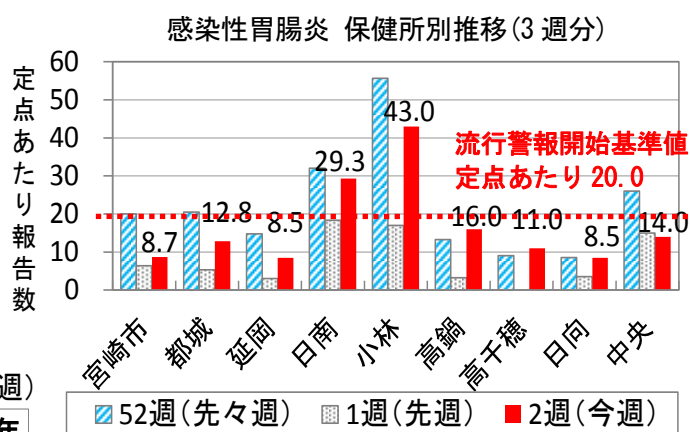
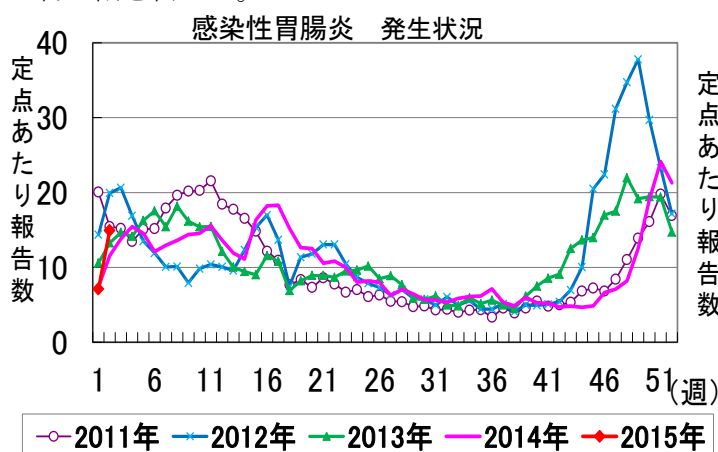
・報告数は 4,509 人 (76.4) で、前週比 300%と大幅に増加した。例年同時期の定点当たり平均値* (16.5) の約 4.7 倍であった。延岡 (98.1)、都城 (90.8)、日南 (87.4) 保健所からの報告が多く、年齢別では 5 歳未満が全体の 24%、5-9 歳が 24%、10-14 歳が 13%、15-19 歳が 5%、20-59 歳が 26%、60 歳以上が 8%を占めた。

* 過去4年間の当該週、前週、後週 (計12週) の平均値



【感染性胃腸炎】

・報告数は 538 人 (14.9) で前週比 210% と大幅に増加した。例年同時期の定点当たり平均値* (15.9) の約 0.9 倍であった。小林(43.0)、日南(29.3)保健所からの報告が多く、年齢別では 1~3 歳が全体の約 4 割を占めた。 * 過去 5 年間の当該週、前週、後週 (計 15 週) の平均値



★基幹定点からの報告★

○感染性胃腸炎(ロタウイルス)：高鍋保健所管内で 1 例報告された。60 歳代で、ウイルス群別不明。

★流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	インフルエンザ(70.4)
都城	インフルエンザ(90.8)
延岡	インフルエンザ(98.1)
日南	インフルエンザ(87.4)、感染性胃腸炎(29.3)
小林	インフルエンザ(84.2)、感染性胃腸炎(43.0)
高鍋	インフルエンザ(56.3)
高千穂	インフルエンザ(39.0)
日向	インフルエンザ(68.5)
中央	インフルエンザ(51.0)

流行警報レベル開始基準値

- ・インフルエンザ(30.0)
- ・感染性胃腸炎(20.0)

□ 病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 平成 27 年 1 月 12 日までに検出）

★細菌

報告なし

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取月日	臨床症状 等	検出材料	検出日
インフルエンザ AH3 型	5～9	男	2014.12.17	インフルエンザ A、37.7℃、上気道炎	鼻汁	2015.1.7
インフルエンザ AH3 型	10 歳代	男	2014.12.19	インフルエンザ A、39.1℃	鼻汁	2015.1.7
インフルエンザ AH3 型	10 歳代	女	2014.12.23	インフルエンザ A、発熱、咳、頭痛	鼻汁	2015.1.7
インフルエンザ AH3 型	5～9	女	2014.12.24	インフルエンザ A、37.8℃、上気道炎	鼻汁	2015.1.7
インフルエンザ AH3 型	10 歳代	男	2014.12.24	インフルエンザ A、38.3℃、上気道炎	鼻汁	2015.1.7
インフルエンザ AH3 型	5～9	男	2014.12.24	インフルエンザ A、40.0℃、上気道炎、胃腸炎	鼻汁	2015.1.7
インフルエンザ AH3 型	5～9	男	2014.12.25	インフルエンザ A、39.0℃、上気道炎	鼻汁	2015.1.7
インフルエンザ AH3 型	10 歳代	女	2014.12.25	インフルエンザ A、39.4℃、上気道炎	鼻汁	2015.1.7
インフルエンザ AH3 型	10 歳代	男	2014.12.25	インフルエンザ A、38.0℃、上気道炎	鼻汁	2015.1.7
インフルエンザ AH3 型	5～9	男	2014.12.26	インフルエンザ A、38.5℃、上気道炎	鼻汁	2015.1.7

○インフルエンザ A 型と診断された 10 名からインフルエンザ AH3 型が検出された。今シーズン、当所で検出したインフルエンザウイルスは、現在のところ全て AH3 型である。全国のインフルエンザウイルス分離、検出状況を見ると、AH3 型が 1,073 例、B 型(山形系統)が 22 例、AH1pdm09 型が 12 例分離、検出されており、現在は AH3 が流行の主流となっている。

🇯🇵 全国第 1 週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第 1 週）

1 類感染症	報告なし				
2 類感染症	結核	53 例			
3 類感染症	細菌性赤痢	1 例	腸管出血性大腸菌感染症	4 例	
4 類感染症	A 型肝炎	1 例	つつが虫病	3 例	デング熱 1 例
	レジオネラ症	12 例			
5 類感染症	アメーバ赤痢	3 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	5 例	急性脳炎 4 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 例	侵襲性肺炎球菌感染症	22 例	水痘（入院例） 1 例
	梅毒	2 例	播種性クリプトコックス症	1 例	

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関あたりの患者報告総数は前週比 62%と減少した(年末年始の休診含む)。今週増加した疾患はなかった。減少した主な疾患は R S ウイルス感染症と感染性胃腸炎であった。

インフルエンザの報告数は 100,117 人(21.5)で、前週比 81%と減少した。沖縄県(48.7)、福岡県(44.2)、滋賀県(44.0)からの報告が多く、年齢別では 5 歳未満が全体の約 14%、5～9 歳が 16%、10～14 歳が 13%、15～19 歳が 6%、20～59 歳が 41%、60 歳以上が 10%を占めた。

R S ウイルス感染症の報告数は 2,427 人(0.82)で、前週比 42%と減少した。徳島県(4.1)、福島県(2.8)、北海道・山口県(各 1.4)からの報告が多く、年齢別では 1 歳以下が全体の約 8 割を占めた。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2015年 第2週(1月05日~1月11日)

疾病名		第1週	第2週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	1504	4509	1127	908	687	437	421	338	78	411	102
	定点あたり	25.49	76.42	70.44	90.80	98.14	87.40	84.20	56.33	39.00	68.50	51.00
RSウイルス 感染症	報告数	17	36	9	15	7	2	1	1			1
	定点あたり	0.47	1.00	0.90	2.50	1.75	0.67	0.33	0.25	0.00	0.00	1.00
咽頭結膜熱	報告数	13	14	2	4	2	2	1			3	
	定点あたり	0.36	0.39	0.20	0.67	0.50	0.67	0.33	0.00	0.00	0.75	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	23	52	13	6	12	4	1	6		7	3
	定点あたり	0.64	1.44	1.30	1.00	3.00	1.33	0.33	1.50	0.00	1.75	3.00
感染性胃腸炎	報告数	256	538	87	77	34	88	129	64	11	34	14
	定点あたり	7.11	14.94	8.70	12.83	8.50	29.33	43.00	16.00	11.00	8.50	14.00
水痘	報告数	28	60	9	6	15	5	3	7	2	11	2
	定点あたり	0.78	1.67	0.90	1.00	3.75	1.67	1.00	1.75	2.00	2.75	2.00
手足口病	報告数	2	7	4	3							
	定点あたり	0.06	0.19	0.40	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	18	27	4	7	4	3	2	5		2	
	定点あたり	0.50	0.75	0.40	1.17	1.00	1.00	0.67	1.25	0.00	0.50	0.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	1										
	定点あたり	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	1	9	2	4	1					2	
	定点あたり	0.03	0.25	0.20	0.67	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性角結膜炎	報告数	6	10	10								
	定点あたり	1.00	1.67	3.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数		1						1			
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2015年第1週~2週)

2類感染症	結核	4例(4)		
4類感染症	つつが虫病	1例(1)		
5類感染症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例(1)	侵襲性肺炎球菌感染症	1例(1)

()内は今週届出分、再掲

月報告対象疾患の発生動向 <2014年12月>

□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は37人(2.9)で、前月比106%と増加した。また、昨年12月(2.3)の約1.2倍であった。

《疾患別》

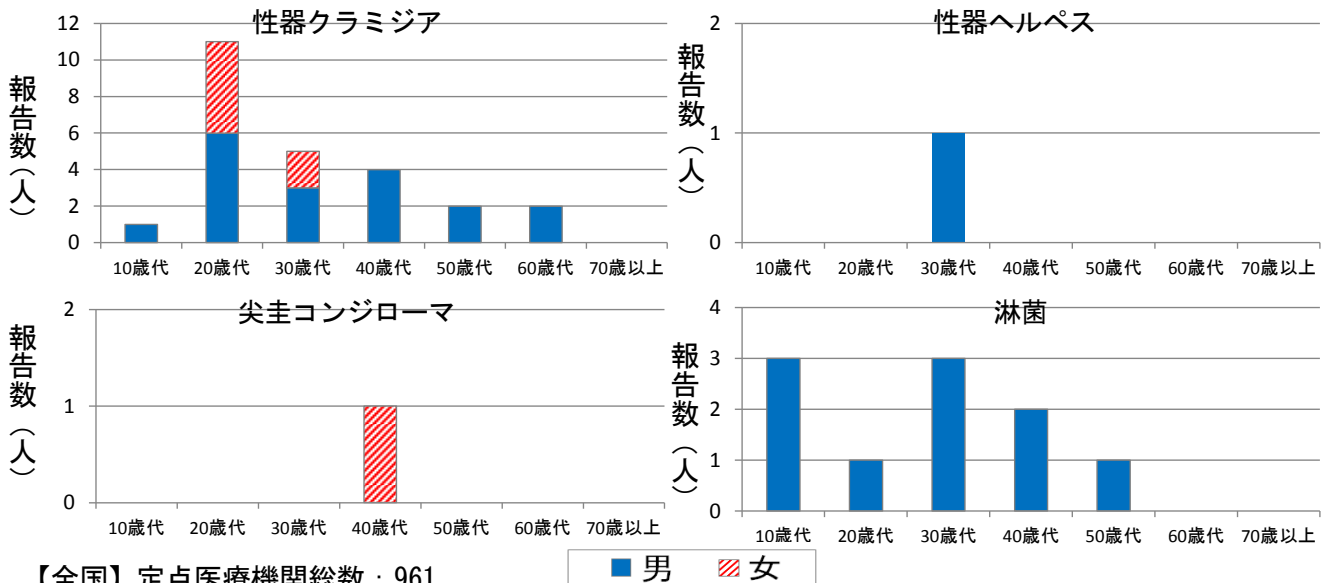
○性器クラミジア感染症：報告数25人(1.9)で、前月と同程度、昨年12月の約1.3倍であった。年齢別では20歳代が全体の約4割を占めた。

(男性18人・女性7人)

○性器ヘルペスウイルス感染症：報告数1人(0.08)で、前月の約0.3倍、昨年12月の約0.1倍であった。(男性1人)

○尖圭コンジローマ：報告数1人(0.08)で、前月と同じ、昨年12月の0.5倍であった。(女性1人)

○淋菌感染症：報告数10人(0.77)で、前月の2.0倍、昨年12月の5.0倍であった。10歳代及び30歳代がそれぞれ全体の3割を占めた。(男性10人)



【全国】 定点医療機関総数：961

定点医療機関からの報告総数は3,539人(3.7)で、前月比96%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症1,785人(1.9)で前月比94%、性器ヘルペスウイルス感染症661人(0.69)で前月比97%、尖圭コンジローマ383人(0.40)で前月比85%、淋菌感染症710人(0.74)で前月比106%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は21人(3.0)で前月比100%と横ばいであった。また昨年12月(2.7)の約1.1倍であった。

《疾患別》

○メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数19人(2.7)で、前月と同程度、昨年12月の約1.1倍であった。70歳以上が全体の7割を占めた。

○ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数1人(0.14)で、前月及び昨年12月と同じであった。

○薬剤耐性緑膿菌感染症：報告数1人(0.14)であった。(前月及び昨年12月報告なし)

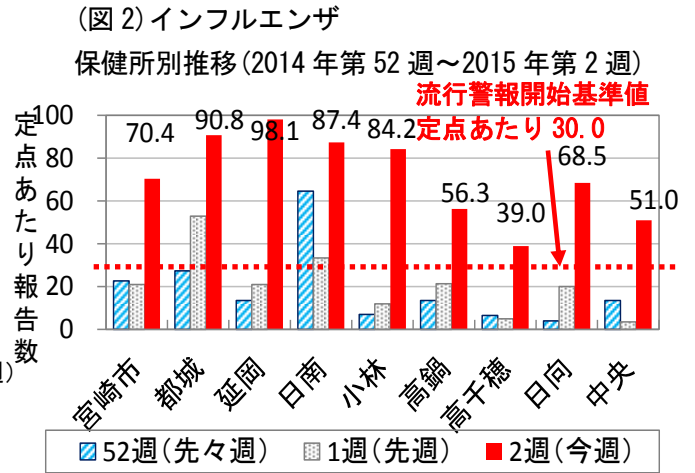
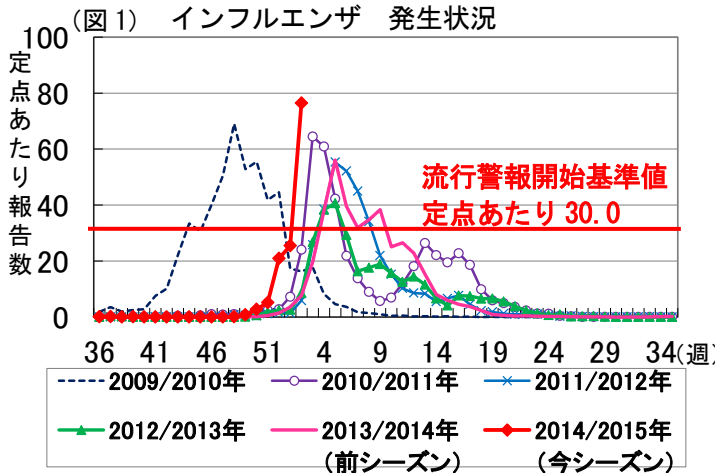
【全国】 定点医療機関総数：472

定点医療機関からの報告総数は1,597人(3.4)で、前月比103%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,384人(2.9)で前月比101%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症201人(0.43)で前月比113%、薬剤耐性緑膿菌感染症12人(0.03)で前月比100%であった。

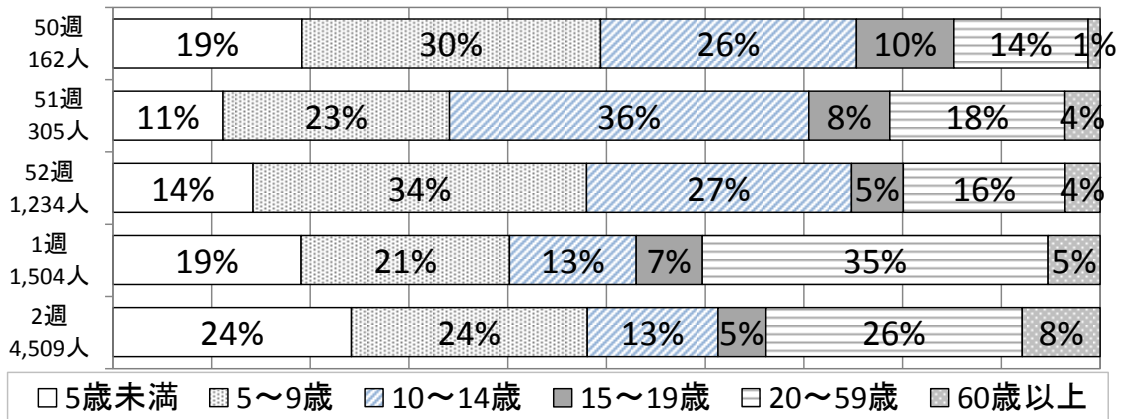
インフルエンザ情報《県内第2週、全国第1週（再掲）》

□ 県内第2週インフルエンザ発生動向

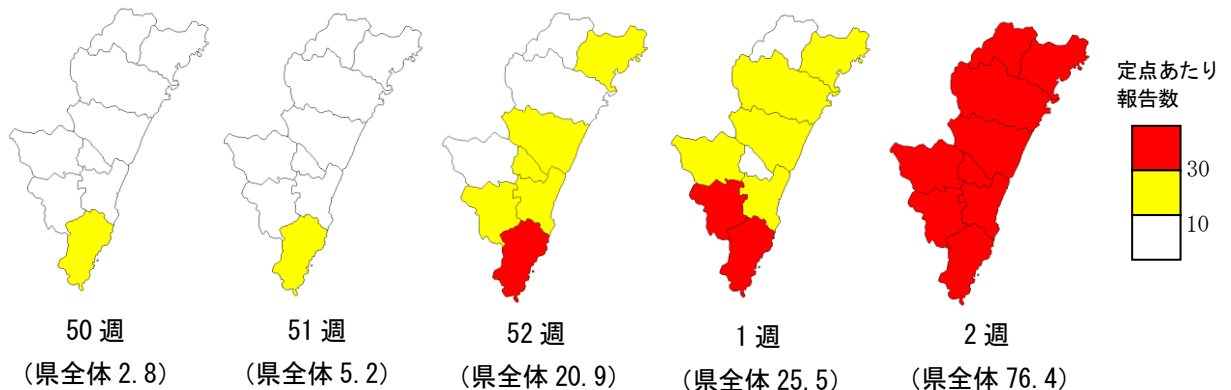
2015年1月5日～1月11日までの1週間で4,509人（定点あたり76.4）の報告があり、前週の約3.0倍に増加した（図1）。例年同時期の定点あたり平均値（16.5）の約4.7倍である。保健所別報告数を（図2）、年齢群別報告数の割合の推移を（図3）に示す。



(図3) 年齢群別割合の推移 (2014年第50週～2015年第2週)



保健所別インフルエンザ警報・注意報レベル状況 2014年第50週～2015年第2週



□ 全国第1週インフルエンザ発生動向

2014年12月29日～2015年1月4日までの1週間で100,117人（21.5）の報告があり前週比81%と減少した。沖縄県（48.7）、福岡県（44.2）、滋賀県（44.0）からの報告が多く、11県で流行警報レベル開始基準値（30.0）を超えている。年齢別では、5歳未満が全体の14%、5～9歳が16%、10～14歳が13%、15～19歳が6%、20歳代～50歳代が41%、60歳以上が10%を占めた。